

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2490400013
法人名	有限会社 小春日和
事業所名	グループホーム 小春日和
所在地 (電話番号)	亀山市南野12番13号 (電話) 0595-82-1948
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 3 月 5 日(水)

【情報提供票より】 (H20年2月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 2人, 非常勤 9人, 常勤換算	5.86人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円 生活保護者33,400円	その他の経費(月額)	2,500 円~	
敷 金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(2 月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊藤医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

前身は、平成16年8月に有料の老人ホームとして開設する。平成18年4月から地域密着型のグループホームとして再始動している。隣接して少人数対応のデイサービスも同敷地内にある。当初からいろいろな問題に直面しながらも、家族等の要望や入居者の快適な暮らしの継続に東奔西走しながら頑張っている。歩いて数分の場所に広い畑を用意して土(自然)と触れ合い、収穫した野菜を家族や、近所にお裾分けできるようにしたいと前向きに取り組み中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての評価事業であり該当なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価について関わっていない。個々の職員で共に評価することが、新たな気づきや改善に繋がる良い機会である。是非全員で取り組んでいただきたい。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) おおよそ2ヶ月ごとに開催されており、活発な意見や要望がでていいる。改善できるところは改善をしている。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や行事参加の機会をとらえ家族等と話し合いをしている。意見や要望を聞いているが現時点での苦情等は出ていない。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にはいり、防災訓練、文化祭、老人会に参加している。秋祭りには子供神輿の休憩場所として広場を提供する等、地域に融け込んだグループホームである。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者(管理者)が地元のかたであり、「明るく家庭的な雰囲気の下、地域との結びつきを重視したい」との想いを明記した理念が、リビングに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議、行事の催しの時、日々の業務のなかで、全職員に理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会をしており、行事(防災訓練、老人会、文化祭等)にも参加して地域の方達と交流を図っている。秋まつりでは、子供神輿に休憩場所として広場を提供している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての評価であり自己評価については管理者サイドでまとめている。職員の自己評価はされていない。	○	個々の職員も共に評価することが、新たな気づきや改善に繋がる良い機会である。評価については形式的に終わらせず是非全員で取り組まれる事を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月ごとに開催されている。利用者家族、利用者、民生委員、地区連合、地域包括センター、市の担当者等が参加し意見・要望が出され、改善点等が出れば見直しに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の援護課の担当者が毎月訪問している。また、地域包括支援センターにも随時出向き相談する等連携している。 地区広域連合より毎月1回の介護相談員の訪問があり、相談にのってもらっている。		
右京					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の状況を報告している。また、2ヶ月毎に発行のホーム便りを家族に送り、近況の報告をしている。金銭については、一旦立替して後日家族からいただく形にしている。一部預かり金のある方には、出入りが確認できる様に、記録をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加の機会を捉え、職員ができる限り声かけ等をして家族から要望や意見の引き出しに取り組んでいるが、現時点では特に多くは出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して2年で当初は退職する職員もあったが今はそれもなく同じ顔ぶれの職員のなかで過ごされている。利用者が不安を感じることはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、レクリエーション関連、食品衛生管理の研修に参加しそれぞれの専門性を生かした研修を受けている。グループホーム協議会にはなかなか参加ができない状態である。	○	例えば、グループホーム連絡協議会等への参加も、今後はできる限り交代して参加できるように取り組まれる事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に何箇所かグループホームがあり、不定期であるが合同で集まり、双方を見学したりして情報交換をしている。	○	管理者だけでなく、職員も見学に行き来して意見を出し合い認知症のケアについて勉強したいとの想いがある為、今後その取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	例えば、帰宅願望がある利用者には、拒否することなく話を傾聴しながら落ち着いていただくまで暖かく見守っている。また、職員を紹介して徐々に馴染んでいただけるようにサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴から得たものを引き出し、得意とする分野でできることをしていただきながら、アットホームな関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者の表情から望む事を押し測り、例えば、お寿司を食べに出かけたりしてその方に合った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議や日頃の業務のなかで職員の意見を聞きながら、また、家族からも聞いたりして個別の介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に変化のない場合にも3ヶ月ごとに見直しをしている。また、変化が見られた時は随時話し合いをしてプランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	人工透析を必要とする方に週3回の通院支援や他疾患でも週2回受診される方もあり職員がサポートしている。また、買い物の支援もして利用者の意向に添うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どが協力医に変更をしているが、以前からのかかりつけ医を受診する方もあり、柔軟に対応し利用者の健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた対応を早い段階から家族等と話し合っている。	○	協力医院が2～3分の場所にあり、特変時にはすぐ対応できる体制になっている。重度化や終末ケアに向けた話し合いを家族と相談しながら前向きに取り組むたいとの思いがあるが、それを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや接し方には改まった言葉ではなく、さりげなく自然な形で接している。プライバシーの保護にも十分注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床が遅れる方には急がせることはせず、その方のペースを尊重した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食だけ手作りで、昼食、夕食は副食のみ宅配サービスで対応している。ご飯と汁物は職員が準備をしている。行事食のときは散らし寿司等、利用者と職員と一緒に食事作りをしてみんなが楽しんで食事を共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・金曜日の週2回の午後からが入浴日になっている。入浴拒否の方には、さりげなく声かけて入浴をしている。車椅子対応の方は、リフトを使って入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、菜園の草とり、お茶配り等できる方ができることをされている。畑で採れた菜っ葉類は利用者がきれいに整理をして汁物等に使っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園や周辺の散歩、花見、近所へ買い物等に出かけたりしてできるだけ中で閉じこもらないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関を施錠することはない。コーヒーを買いに出られる方がいるが、職員は見守りながら出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼、夜を想定した火災訓練を職員、利用者が一緒になって実施している。また、自治会主催の防災訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配サービスの食材である為、栄養バランスを考慮されたものが提供されている。水分摂取についても不足が生じないように各場面での摂取の確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓も多く明るい。強い日差しもカーテンで調節している。気になるにおいも感じることはない。テレビの音量も適切である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大きすぎる仏壇も利用者のたっでの希望で持ち込まれている。他にも整理ダンス、写真、テレビ等思い思いの品が持ち込まれており、穏やかに過ごされている。		